

綾瀬市立北の台小学校

研究テーマ：『すすんで学び合う子の育成を目指して』～聴いて、考えて、伝え合う力を～

1 実践の目的

本校ではこれまでに積み重ねてきた「伝え合いの土台」をもとに、平成27年度から子どもたちが主体的、協働的に学ぶこと（主体的、対話的で深い学び）を通して、「知識や経験をもとに課題を解決する力」「論理的に考える力」「自分の考えを表現する力」といった教科の枠を超えた社会で広く活用できる力（ジェネリック・スキル）を育てていきたいという願いをもって、研究を進めてきた。さらに平成28年度からはサブテーマを『「聴いて、考えて、伝え合う」力を』とし、学習したことを広く様々な場面で活用できる力のある児童のさらなる育成をめざしてきた。

また、「伝え合うための北の台モデル」を活用し、段階を踏んで少しずつ伝え合う力を高めていけるよう、日々指導している。子どもたちが自分の意見だけでなく、他の意見も取り入れながら、考えを広げたり、深めたりしていけるように取り組んでいる。伝え合いを充実させるためには、どのような課題であれば子どもたちが主体的に取り組むことができるのか、どのような発問をすると全員が課題を理解し取り組むことができるのかということを考えて、授業づくりを行った。

2 実践の内容

(1) 校内研究の体制

昨年度より、低・中・高・支援の4部会で、推進委員が中心となり、計画的に部会を運

営している。今年度は、「伝え合うための北の台モデル」の活用について、児童の実態に合っているか、各学年で到達目標を達成できるようにどんな取り組みを行うか、実際に行ったことの振り返りや検証などを部会毎に行った。また、学期ごとに各部会で話し合ったことを共有する時間を設けた。

(2) 研究授業、研究協議

低・中・高学年と特別支援学級の4学級で全教職員が参観する研究授業を行った。また、その他の全ての学級も授業を公開し、全員で校内研究のテーマに迫るようにした。

研究協議は、ワールドカフェ方式で行い、毎回2本の協議の柱に沿って話し合った。短い時間の中ではあったが、授業についての新しいアイデアや提言など、今後の授業や研究に生かすことのできるような協議を行った。

(3) 公開教材研究会

全体授業研究を行う学年は、必ず開催した。30分程度の短い時間で設定し、授業者の思いや悩みを共有する場とした。参加者全員で授業改善に向けて建設的な話し合いを行った。

(4) 研究を支える日々の実践について

① 伝え合うための北の台モデル

昨年度、児童の実態に合った内容や育てたい力について見直しを行った。今年度も手元に置き、育てたい力を意識できるようにし、授業づくりの際に活用できるようにした。

伝え合うための北の台モデル

<p>◆自分の考えを伝える。</p> <p>自分の言葉で思いを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●話し方を相手に合わせて、相手の気持ちに寄り添って話す。 ●相手の考えに理由をつけて話す。 ●聞き方の聞き手も相手に合わせて、話し手も気持ちよく話す。 ●聞き手がわからない時は、聞き手も聞きやすいように話す。 	<p>【自分の言葉】</p> <p>「自分の言葉で思いを伝える。」</p> <p>「自分の言葉で思いを伝える。」</p> <p>「自分の言葉で思いを伝える。」</p>
<p>◆聞き手を意識しながら、自分の考えを伝え合う。</p> <p>話し手・聞き手の両方を意識して話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●話し方を意識しながら話す。 ●聞き方を意識しながら話す。 ●話し手・聞き手の両方を意識して話す。 	<p>【聞き手を意識しながら、自分の考えを伝え合う】</p> <p>「話し手・聞き手の両方を意識して話す。」</p> <p>「話し手・聞き手の両方を意識して話す。」</p>
<p>◆ほかの人の話を聞いて、つなげて話す。</p> <p>相手の話を聞いて、自分の話を続ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●相手の話を聞いて、自分の話を続ける。 ●相手の話を聞いて、自分の話を続ける。 	<p>【ほかの人の話を聞いて、つなげて話す】</p> <p>「相手の話を聞いて、自分の話を続ける。」</p> <p>「相手の話を聞いて、自分の話を続ける。」</p>
<p>◆自分の経験をもとにして、考えて話す。</p> <p>自分の経験をもとにして、自分の考えを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分の経験をもとにして、自分の考えを伝える。 	<p>【自分の経験をもとにして、考えて話す】</p> <p>「自分の経験をもとにして、自分の考えを伝える。」</p>
<p>◆かかわりのなかで、学び合いを話す。</p> <p>お互いの考えを尊重しながら話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お互いの考えを尊重しながら話し合う。 ●お互いの考えを尊重しながら話し合う。 	<p>【かかわりのなかで、学び合いを話す】</p> <p>「お互いの考えを尊重しながら話し合う。」</p> <p>「お互いの考えを尊重しながら話し合う。」</p>
<p>◆これまで学習した「聴き方」「話し方」を、自分の言葉で「伝え合う」ことをめざす。</p> <p>自分の言葉で「伝え合う」ことをめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分の言葉で「伝え合う」ことをめざす。 	<p>【これまで学習した「聴き方」「話し方」を、自分の言葉で「伝え合う」ことをめざす】</p> <p>「自分の言葉で「伝え合う」ことをめざす。」</p>

② 朝学習

朝学習は週1回、各学年で計画的に語彙力を高める学習を行った。

③ 家庭学習

低学年は学習習慣の定着、中学年は自主的な学習習慣、高学年は計画的な学習習慣を身に付けるため、内容や分量を学年で統一し、毎日課題を出した。自主学習については、専用のノートを用意し、授業の復習を中心に内容を児童に選択させ、計画的に取り組ませた。家庭にも家庭学習の目的や学習の仕方を伝え、連携して取り組んだ。

④ 朝読書

読書活動の推進のため、週2回、全学年で行う読書活動を行った。1～3年生はボランティアによる読み聞かせも週1回行われた。

3 実践の成果

○テーマを意識して、指導や言葉かけを行ってきたことで、「聴く力」「伝える力」を育てることができた。

○教科が自由ということで、様々な考え方や視点を勉強することができた。

○公開教材研究会では、授業を行ううえで自分たちが困っていることやアドバイスをもらいたいことを中心に話し合い、研究授業に生かすことができた。また、参観者にとっては事前に児童の実態について知ったり、教材について考えたりしたことで授業をより深く見ることができる機会となった。

4 今後の展開

聴いたり、伝えたりすることができている子が多くいる。一方で、聴いた意見を自分なりに解釈して考えを深めたり、新たな発見をしたりするところまで至るのは難しかった。

上記実態を受け、これまで「伝え合うための北の台モデル」を児童に提示していなかったが、児童にとっても分かりやすい形に変え、児童と共に活用することで、児童自身も目指す姿の見通しをもてるようにしたい。

また、研究主題が数年同じなので、積み上げてきたものは多くある。一方で、児童の実態は変容してきているため、今の児童に合った研究主題や副主題について再考していくことも必要である。

部会の運営については、それぞれの部会が互いに、どのようなことをしているのかがあまり分からなかったため、各部会同士で取り組みの共有をしたり、相談をしたりする機会をもち、部会の時間を効率的かつ充実したものにしていきたい。